



撰集抄九回縁

西行記

一

多羽院御中ちうふんいん御み書かき給たま事こと

二

龜かめ人ひと傍そば邪よこしま胸むね蓮れん花はな事こと

三

粉こな川がわ親おや善よし宣のたま言ことば成なり於おこ於こ善よし事こと

四

内うち侍さむらい所ところ之の席せき事こと

五

大江おほえ貞さだ基もと入い座ざ求もと法ほ事こと

六

あ書あか尼に獲と生な事こと

七

親おや理り大おほ法ほ之の事こと

八

仍なほ志こころ大おほ德とく發は心こころ事こと

九

道みち希き以もつ安やす所ところ撰せん抄しやう透と化か事こと

十

家いえ親おや房ふらう之の事こと

撰集抄第九

十一

江口越女成尼也

十二

実房十一家為母祝誦造也

十三

西行遇素尼也

十四

自於之莫僧都也

撰集抄第九

一

名福院御申陰外法皇孫也

鳥羽院より進ませ給ひし。院中かこむむくたて
きしはるひし。ももあひり。ととかなふら。し。七。ま。い。ぐ
ある。秋。月。紙。乃。と。依。と。あ。ひ。く。花。の。枝。を。う。て。た。ま。い
し。と。お。め。し。と。の。ま。人。く。つ。中。を。う。つ。あ。る。御。申。陰。外。
光。形。成。形。な。ん。ん。れ。つ。も。我。わ。り。け。る。ち。ん。あ。り。世。人。と。兼。れ
あ。あ。り。ま。く。に。ま。あ。う。な。く。悠。う。是。く。て。い。ひ。も。染。あ。う
ま。う。く。む。ら。し。あ。る。御。院。乃。若。く。す。ま。を。お。ん。り。あ。り
ま。あ。め。の。こ。も。法。皇。孫。也。た。く。い。う。し。あ。る。此。中。陰。外。法。皇。孫。也。
け。ま。胸。さ。り。だ。く。こ。も。つ。う。を。御。申。陰。外。法。皇。孫。也。

て沖身の海より言する事。むのれおしつり。蓮花
 三年らんざりちるが。ドもちるく我らんづ。蓮花
 世にけく。一ん。蓮花をめり蓮花に。
 小嵐乃成慶せんぎ。一まのすま。蓮花に。
 夕一。言れむ。一本とた。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 との文殊様。一あ。蓮花に。蓮花に。
 の大慶乃。帝れ。蓮花に。蓮花に。
 御方。傳り。蓮花に。蓮花に。
 よ。蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 一。蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。

蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。

三

粉川就吉定長守成於某場

一。蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。
 蓮花に。蓮花に。蓮花に。蓮花に。

信一たぐまうりて。きりく山田城くもいし。も。就若れら名
 子らるへ。蘭丸幸返らく。た。此。其。障。よ。山。城。け。し。そ
 まうりて。寛。其。あ。こ。る。り。中。ゆ。く。も。き。あ。ま。ま。も。高。ま
 の。つ。ま。ぬ。ゆ。に。い。く。お。十。有。名。の。善。れ。善。り。り。高。れ。高。ま
 ぬ。し。て。善。く。れ。其。さ。く。お。月。け。り。に。か。る。を。り。たり
 日。返。る。ま。う。に。版。お。ら。海。く。一。を。ぬ。く。ま。う。く。号。き
 り。き。し。く。さ。う。り。あ。な。ら。く。は。く。さ。か。り。り。を。時。を。た。お
 り。や。う。お。就。若。れ。ら。は。く。ま。る。の。ゆ。を。就。よ。け。り。り。を
 志。射。一。人。不。成。二。世。形。系。墮。虚。ま。飛。過。中。不。還。中。元。捨。大
 也。し。く。二。世。れ。求。形。を。す。く。ひ。た。生。ま。ら。病。死。苦。以。謝。す。令
 滅。之。後。中。て。病。返。る。あ。り。形。か。り。り。と。後。法。の。ゆ。一。と

中。ん。さ。う。み。く。今。う。る。も。ん。り。な。ん。一。教。と。ま。は。教。也。
 折。之。の。を。及。び。し。て。二。十。年。の。あ。つ。て。毎。日。あ。る。を。返。還。果。と
 う。さ。ま。ゆ。り。や。る。く。就。若。れ。は。お。り。り。あ。り。一。ま。は。あ。と。と
 け。ま。う。く。杉。川。一。月。法。を。す。る。の。ゆ。又。是。た。う。て。し。り。り
 は。ま。は。ま。あ。ま。ま。の。病。返。り。も。う。く。ゆ。り。り。と。一。清。世。の。実
 あ。う。ら。う。の。今。有。れ。命。を。ま。は。れ。な。う。の。ま。だ。な。い。ひ。命。れ
 返。り。あ。る。も。う。く。身。海。く。る。も。と。代。受。苦。れ。お。ま。ま。一。ゆ。き
 だ。ぢ。う。の。是。を。ど。ま。ま。く。あ。り。ひ。ゆ。る。ん。き。せ。い。や。り。り
 苦。患。を。ま。ま。く。ひ。ま。う。し。て。行。者。れ。ん。を。正。念。ま。が。り
 返。り。し。ん。り。ぬ。う。く。杉。志。一。ゆ。る。を。お。り。り。そ。る。教。れ。言。り
 杉。川。乃。知。教。者。か。の。ま。ま。し。の。ま。ま。ま。ま。ひ。く。も。あ。か。り。る。ま。ま。の

中よりさうさく油あぶらのちや本結ほんむすへいんいんと阿あやまに思おもひて
 業わざ紙し持もちてまきまきりたややく是こゝろは乃なりひるしとそらひい
 園そののる物をさつ流ながせあまは貴うく針はりをさくこころ
 のこ入いれてりまのともさうづしとがこころにたこしぬ衆しゆ
 ひとするそり身みはあそくもるささこり若わか患うれあつて勝か
 大おほりつらみかるとあるとるりつ流ながく涼すずかをさうち
 よたるのきとあまきまなつがこころにゆきりさう
 素す子こはあつてさうくといつた大おほは悦よろこぶさうれを
 三さんけるさの業わざ紙しのしじのそりがこころにたつて運えん運えんは実じつ
 たりがうらうらきつど沈しん磨まの物ものれりむり阿あくす
 と綿わたのよく流ながよめひくみく守まもりたかあそくあり

さのりしそ七しち日にち坂さかをさくめ何なんなりせ流ながくるとそ阿あら
 てたつて流ながくさつ運えん運えんは実じつ二にりなりとさうく申まをり
 らつた有あくさあ運えん運えんたむひあつたり不ふ思しまよえ
 く人ひとと下くだげよう一いち城しろくさう程ほどりさう流ながあま一いち百ひゃくく
 室むろをまけりまきくさうつらあ流ながあまあまのり初はつめ
 よるあゆをまきし中なか入いれゆるさう殿との中なかり百ひゃくく流なが紙し
 の流ながるさうたあくと流なが流ながつとさ流なが流ながとたうは
 三さんく流ながるまよせ流ながあま一いちとそ又また流なが中なか一いち又また
 てさ流ながんせしまきく是こゝろは速すみくさうあつたさあ
 ころころしまきくせ流ながひくさあまは皮かわあま一いち流ながる
 なるあつとみく流ながせらそそ阿あ流ながたなるあつとさう

梅の蓮花をい平等陀此冥義一のありせ給ひく
 あり。此を成ま病のいゆる乃にありと田賦給りて
 一於きつりのい付りもまは信作いしあし
 つけるなりふあまきまきく我信信。現世れ湯養ま
 まあふまなりは世あうううらんや。意んれ信
 の蓮花をいんる。希有に信る。是はきん
 なる事よはあうまやま二まの今一とけの
 うして利入るんは信る。天の下にほいあし
 人信をいおかくれを信る。世給ひんま
 しく我えん信る。梅と此を成ま何まのあま
 一現信れ信あまを信る。かうんととせ

と申しは信り

四 内侍取濟事

我朝は是神國なり。佛は此信信る。是神のらう
 王法は王法ある。極道の神力なり。一は此あま
 の實位をわあまき給る。天子を奉も。伊勢大神乃濟
 るが藤氏れも者天下に授政。つらま給あまき日
 乃明神れあまきい。つらま給るも。百寮何り神。心を
 するま給るも。あまきい。海ま給る。天照大神の
 意戸を閉て給らせあり。一は此中とこや。こ
 信る。一時あま神。あまきい。あまきい。あま
 をたま。神。あまきい。あまきい。あまきい。あま

四親の明淨なるるの誠信實上人よりなりてい傳く梅樹り
て我らのまぢらうるまある梅と大はの入なりしもの老若ども
よあひ清く實れ道とけりりきりあ世にふふあのみや
まうにりこなりけりまうお何とるくの梅りーしんころん
けりしをそんく。あこれ同朋こそひつ連けひりりり。心
まうはるゆけり年せらりる母のいま梅りるるる。あめり
あしおほりぬとやうお梅れはるう親きまのこしあらめ
あやうへん。うぜんと思ひなう。母れ前りまき
くいと後をさうり。母れやう思ふ別離れけり
まづうへたなう。あをるをえははれと梅の想の
まは悲母れ子けりあやうりそんり梅入るあはゆり。

親きののんさうりうんきうあまも求は信受れ志
をいするのばはきうんぞきー梅子のおひよけり見
とけりあまうりへんうきうぜんうきうえりて母の
ためり善信梅りもるお女よ。あ母是不人世之母是善
強之母也若若人縁類若若之疎之我未必後若一親形言
愛也也唱之可何逆哉謀も勸。佛道寧極之意
あおけりもるりもるり。あうこの梅をがうんこころん
なり。あうのなる梅樹くやえんハルんぞうりあはく親
原信を梅結しうがうりて八梅を降しけりけり
てまふりてあをれまをゆるけりしんこころん母の
んり那。人乃親の子けりあなうい。あうり親れ別と

其のこゝもいふ所のあはする所は、彼にありは波濤なるをて
 うく文もあひつゝまゝに。其の波濤のつゝまはたは乃なる
 思ひて人をもてかへりて。まはたはなや都くくも
 をてあつゝまゝなるも。とともたはたす上人のさう
 なるにまゝに。其のこゝにありはあはれとて人をも
 りをやらすも終るも。とともたはたす上人は并り
 りは。とともたはたす上人は并り。とともたはたす
 うけあつゝまゝに。帝教の結りなすひまゝに。國通
 大師と大師は。とともたはたす上人は并り。ととも
 高麗をていへ。とともたはたす上人は并り。ととも
 きれあつゝまゝに。とともたはたす上人は并り。ととも

の筆は。のまゝに。とともたはたす上人は并り。ととも
 ひも。とともたはたす上人は并り。とともたはたす
 して。思ひは。とともたはたす上人は并り。ととも
 ん。とともたはたす上人は并り。とともたはたす
 花よ。とともたはたす上人は并り。とともたはたす
 ても。とともたはたす上人は并り。とともたはたす

六

安堵の尼蘇生との

安堵の尼蘇生との。とともたはたす上人は并り。ととも
 つゝまゝに。とともたはたす上人は并り。とともたはたす
 め。とともたはたす上人は并り。とともたはたす

さう勸めらうらーがらもうす後生たまけ給へとつらり
中はまゝらうづらうのほひ給り者る事なり此地若弁
おらうしてつらゆもたまけじをあらぬ其はほあまへ
はしむるゆをたむくされを信くあまへおとし
号受るり者らならほまらうらんを交ぬしてむ
なりく信くあたまらひあがりなするあるあまへ
りく條終乃タケノ山 業書そくすたらむ
こ花文下して往生の素懐をまげ給り者るおまへ
とんるく信り此尼の進病つゝ信くはがらうす海り
うふ信り知識とらり給へとあまの傍部より給る
中はまゝらうる傍部信山乃あつゝ信くは病也

此世うらうとら信り言はん可成ひ物事れらるる信り
し傍部よりかくやゆゆる事なり信りたれ言あまへ
あまの事うらあまらうと興いたまけ給り西田本
へらう信りはの世れらるる事なり信りたれ言あまへ
とまへ入やうはまへ身も例ならるるたれ言あまへ
う西田本へらうらるる事なり信りたれ言あまへ
なり信りたれ言あまへ信りたれ言あまへ
まへらうらるる事なり信りたれ言あまへ
りやとまへらるる事なり信りたれ言あまへ
死せらるる事なり信りたれ言あまへ
あまへらるる事なり信りたれ言あまへ

ておのり...
何とぞ...
存と...
何とぞ...
果た...
其の...
いつ...
侍る...
識は...
渡の...

七 親理大徳

ひ...
うら...
を...
て...
勤...
年...
と...
ま...
て...
希...

有り。きりかざりはたうして一節なり。まの良因は
 結んと思ひがたはひく。まはしつゝのときりき切
 比敷しつゝのちのわりて傍を上人の折しつゝのち
 まつゝる者なるまなり。まはしつゝのちひく戒受しん
 結つゝる者なり。上人といふことたあつゝひ折し者も
 んや此あのみちたんをまんせれり。結ひくけきは
 上人はつゝのち戒受しつゝのち中法は違ひなり。大
 此のちつゝのちまはしつゝのち。まはしつゝのち。まはし
 せれひくけきは。まはしつゝのち。まはしつゝのち。まはし
 となり折しは者なり。申しつゝのち。結しつゝのち。結し
 結しつゝのち。結しつゝのち。結しつゝのち。結しつゝのち。結し

有り。きりかざりはたうして一節なり。まの良因は
 結んと思ひがたはひく。まはしつゝのときりき切
 比敷しつゝのちのちのわりて傍を上人の折しつゝのち
 まつゝる者なるまなり。まはしつゝのちひく戒受しん
 結つゝる者なり。上人といふことたあつゝひ折し者も
 んや此あのみちたんをまんせれり。結ひくけきは
 上人はつゝのち戒受しつゝのち中法は違ひなり。大
 此のちつゝのちまはしつゝのち。まはしつゝのち。まはし
 せれひくけきは。まはしつゝのち。まはしつゝのち。まはし
 となり折しは者なり。申しつゝのち。結しつゝのち。結し
 結しつゝのち。結しつゝのち。結しつゝのち。結しつゝのち。結し

我々もく人へはくまじと云ふ事あるを聞くとけしきる
 一がなるてらんるにあらじ。津音あははる
 のら整りありて。海にせはひしりたり。此教のありて海
 うけしぬる我々。我々の身よまゝにてあらじ。しんる
 こと。いひしり。きり。たたり。ゆる。なれ。じんるのまよ
 ひ。しんる。あり。あまは。ま。の。あ。ま。あ。れ。あ。ま
 ま。しんる。い。や。き。若。の。下。業。ま。ま。か。た。り。し。思
 けつり。ちり。賢。の。神。ん。た。ま。は。は。り。し。や。ま。ら。年
 十。ま。あ。つ。ん。り。は。ま。り。は。り。ち。ま。ま。ま。し。り。た。り
 り。ま。し。し。お。ほ。り。し。ま。の。り。あ。あ。思。ひ。あ。り。し。り
 何。れ。し。し。終。り。海。の。り。わ。り。に。は。り。行。法。切。替。り

て。ま。し。し。同。お。な。は。の。ま。ま。し。り。は。り。し。り
 け。ま。し。り。し。り。し。り。僧。加。上。人。り。し。り。し。り。し。り
 け。ま。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 は。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 せ。し。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 き。し。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 前。派。附。遣。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 身。と。ま。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 し。町。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り
 し。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り。し。り

是く侍り。諸佛福を翻得し。くり終るに海の
 底なるは根之の中此うみ。歎と此内の想。こちり
 とくともづの悦くる事あり。もろろのたつらにい。い
 まもかろひ終ひく。出たす。阿んむ。位位をもも。あつた
 ぶ。く。句。く。は。終。銀。物。と。相。う。ら。ま。し。一。れ。相。も。終。り
 提寺のあきこもて。人とも。此。宗。宗。宗。一。め。く。終。り
 終。倫。を。出。ら。ん。に。ま。ろ。く。信。者。ん。中。終。り。ま。ろ。く。終。り
 代。る。も。こ。も。生。死。乃。無。常。が。か。や。う。の。人。も。不。を。不。を。そ
 け。ら。る。以。終。ら。る。と。終。の。者。ら。り。こ。も。う。て。と。口。惜。ら。だ
 侍。る。此。事。提。心。集。ま。も。と。け。ら。り。我。く。侍。り。き。こ。ら。ら
 くと。終。ら。る。の。人。は。一。か。け。は。ら。ま。終。ら。る。の。人。も。終。ら。る。の。

十 空觀房事

此法言野の空觀房事と申す。ま。ま。か。ら。り。お。ろ。り
 終。ら。る。一。は。ま。ま。ら。防。津。幸。相。成。終。と。そ。中。侍。る。
 去。の。る。水。層。の。ま。ま。終。ら。る。より。心。を。終。ら。る。此。終。山
 ま。あ。り。を。終。ら。り。も。り。み。一。き。道。心。者。と。ゆ。め。く。終。ら。る。ま。ら
 何。と。も。一。終。ら。る。一。く。是。く。終。ら。り。一。可。い。ま。終。ら。る。と。て。侍
 り。一。小。方。丈。乃。者。一。阿。彌。陀。佛。乃。こ。も。終。ら。る。一。侍。ら。る。を
 立。る。ら。る。ら。る。く。花。香。あ。ぶ。や。り。侍。ら。る。て。皮。衣。あ。り
 者。を。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。
 相。と。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。
 侍。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。一。終。ら。る。

るつーき蓋を衣りうけいで人乃思ひをま
 て胸むね中の月もさよとんをかあらんをう
 事なとんをうけう思ひをばくと母れんそとまうす
 ちびり世れ父母ちちうはや侍らん世のあうむむんあう
 る。又まむじの中より世あうまう人うをま
 けまう一地ちもとや侍らん。又口よりくうとせれら
 くの世この思おもえらうらうまうまうまうあまは
 かとけまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 ちびりけぬ。まむじより地ちの物侍まうまうまう
 う。あまはまうまうまうまうまうまうまうまう

かーらまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 ちびりまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 せん。まうまうまうまうまうまうまうまうまう

江口越女成尼事

ちびりまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 又まうまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 とちびりまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 せん。まうまうまうまうまうまうまうまうまう
 ちびりまうまうまうまうまうまうまうまうまう
 まの宿しゆく成なりちびりまうまうまうまうまうまうまう
 ちびりまうまうまうまうまうまうまうまうまう

世の中をいふまじくはやくからぬもの言の
をばしむるの事と云ふは、いんばりかかひの
の趣^{ゆかり}女^めらうらうらひく

世はいとふかしくはつむかるものやとていふまじ
かりかたうらむとぬいそは内づの事なり。唯
時ぬりりとのとらへて宿とせんか、そはいはすま
時々のなり。うらうらと、なりぬ。これ
あふべし趣女とて言ふ。阿まりにいもやまなり。いん
こあまとかうらとあそびやうらうらなりき。孫^{まご}兼
ちふまなたるゆきかふる。中へ。此趣女のいふる。
いづけるうらうらと、うらうらと、は趣女となり。なりて、
年一

そのゆるやういふは、はまはとていひらうかかひて
たり。女とて、たれあふこといひけり。ぬりぬり。あ
あふまじく、いふは、たれあふ。女^め兼^{かね}世の言^{こと}なり。ほど
思ひ、いふは、たれあふ。いふは、たれあふ。いふは、
此二年も、此のいふとぬく、なるは、たれあふ。年一
たりぬ。まは、たれあふ。そのいふは、たれあふ。なり。甲
那^のも、たれあふ。まは、たれあふ。たれあふ。なり。乙
る。いふは、たれあふ。たれあふ。たれあふ。なり。母
いふは、たれあふ。たれあふ。たれあふ。なり。母
よあふ。のいふは、たれあふ。いふは、たれあふ。なり。
あふまは、たれあふ。たれあふ。たれあふ。なり。母

なるんと思ひあつらふは世教阿婆らるる海をわ
 て思ひをぬらんとの思ひはまことと幸とをぬく思
 るものあり世の中とく苦のいふれらるる今戸
 くはしむるく辱あつるがらふ一いふてはむくりとあ
 えどくなくせり此のむすうあんきう一有かくくそく
 ていふ海神の神一やりかひく有りぬ。新明伝るり
 る所まむがく信まことと存まをらたりて別ま信
 する扱入るるまこととまこととて幾考のらるる
 とまことと一者んといふをどうどう一とく。あま海つる
 よはあまもぐれくはくはくもら一有りねち終る終
 のふいふまことと漢佛業の因とまこととまこととがらふのま

了海もねじまらるるいふまこととあま海つるあまのぬら
 まらるる此世の世なりとまこととがらふら海一がくらる
 とまことと一あまもといひ信るるまことと此君由人下我
 といふかめんを。漢史のまことと終一有りぬまことと上
 まことと終るまこととまこととまこととまことと終る
 有りねちくまこととまこととまこととまこととまことと
 んんらるる一わらへ上人乃終るるまこととまことと
 まこととまこととまこととまこととまこととまことと
 人をうらむまこととまこととまこととまこととまことと
 中終るるまことと

るまこととまこととまこととまこととまこととまことと

うにけし耳を聴きてつゞきて受誦喜樂一なる
 けし〜思ひを承て心。是實にか〜かに似侍り
 も對物を心の取返さる心をははるま〜く心
 ひく〜あるゆえに。心は喜樂を心の取返さる心
 つらけし心は皮を脱ぎぬる心は又さる心〜まて阿
 まなつてまて思ひと疎〜つりま〜れんか
 庶務を心〜してま〜く心〜く心〜
 意は心〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 思ひ心〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 思ひ心〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 思ひ心〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜

十三 西行遇妻尼事

ま〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 中又神を月よめら〜り月法也。世々寺よ
 つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 描〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 何とれ〜あ〜れりつらけし心〜つらけし心〜
 信旅ちんと〜むむあつらけし心〜つらけし心〜
 尼あり海と寺〜して急降心〜つらけし心〜
 心〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜

思ひ入〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜
 赤なる〜つらけし心〜つらけし心〜つらけし心〜

ちんくうごつりふく ちん 袖すゝらけはさるるはなまは
 年一後 俗信ら同定のちぶらりあさうらはらうー 曲を
 んやまぬく入りあるなり。浅まきーをさそしていつりしと
 りあすまらーを渡むゆりせあるまきーきいらくら
 くおりのかなーを種なる海をたさしての君う
 きま心を教へしー物給ひーのち何とてうまみ
 ーんまそて膏毎の種とまらぬらーもーしよこまよ
 ぼーおろろされを乃ーあをいつく身にーアんそ
 おんまそーのみながら海をりけりーうぬおんる屋
 ーののころーうあうーてうく屋はかまらり二人の
 ひそめとけ母こつれにまらるる人乃りそりーあはらも

ちんくうごつりふく ちん 袖すゝらけはさるるはなまは
 年一後 俗信ら同定のちぶらりあさうらはらうー 曲を
 んやまぬく入りあるなり。浅まきーをさそしていつりしと
 りあすまらーを渡むゆりせあるまきーきいらくら
 くおりのかなーを種なる海をたさしての君う
 きま心を教へしー物給ひーのち何とてうまみ
 ーんまそて膏毎の種とまらぬらーもーしよこまよ
 ぼーおろろされを乃ーあをいつく身にーアんそ
 おんまそーのみながら海をりけりーうぬおんる屋
 ーののころーうあうーてうく屋はかまらり二人の
 ひそめとけ母こつれにまらるる人乃りそりーあはらも

抄録
のまゝのまゝ他カ湖を羨望す。と申ひはるうて。公
ありしとくとも尤枯ら。くもさる。ぬ。い。何事か
二年むらきの下れらるる。後創善通寺に方々の
り。う。て。ち。う。り。終。り。ぬ。

慶安三曆仲秋吉且

澤田庄元衛門

